

小平市の学校教育の重点

- 互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間の育成
- 社会の一員として、社会に貢献しようとする人間の育成
- 自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人間の育成

学校教育目標

- ◎ 考える子
- 思いやりのある子
- たくましい子

地域の実態と願い

- 開拓以来350年の歴史と伝統を守っている小川地区。落ち着いた住宅街の学園西町・津田町地区。
- 市民意識が高く、学校の教育活動に協力的。
- 確かな学力と、自分の子供をしっかりと見て欲しいという保護者の願い。

児童の実態

- 落ち着いた生活の中で授業に学習に集中できる児童が多い。明るく素直で積極的。

各教科の指導の重点

- 基礎的・基本的内容の定着や考える力の育成のため、重点を明らかにした指導計画を立て、個に応じた指導を行う。児童の能力適性に応じた指導を充実し、個性を伸ばし学力を向上する。
- 「考える力」を育成するために、児童の発想・思考・表現を大切に学習の展開を図る。児童が自ら課題を見つけ、自ら解決する問題解決学習の授業展開を工夫する。
- 教師相互の協力や地域や学生のボランティアを活用し、体験的学習や問題解決学習が効果的なものとなるように工夫する。
- 教科や領域との関連を図り、言語活動を計画的に取り入れ、基礎的・基本的学習の定着を図る。

学校経営方針(学力向上に関わる部分の要点)

基礎基本を重視し、確かな学力の定着と個性や感性を生かす教育活動の充実を図る。

- 校内研究、自主研鑽による指導力の向上
- 児童自らが課題解決に取り組み、その過程で基礎基本を身に付け、問題解決力の育成を図る。
- 思考力の育成、論理的な文章表現の育成に努める。

<具体的方策>

- 児童一人一人の個性や適性に応じた教育の充実を図り、学力の向上を目指した研究・実践を進める。
- 考える力の育成のために創意工夫した授業実践を推進する。
- 週に2回10分間ミニ作文に取り組み、表現力と論理的思考力を育てる。
- 学力調査の結果を活かした授業改善を進める。
- 週に2回漢字小テストか漢字練習を実施し、言語能力を高めるとともに語彙力を増やす。
- 各教科で教材の開発や活用の推進を行う。
- 学校図書館を充実させ教育活動の場として活用する。
- 学校支援ボランティアを一層活用し、個別指導の充実に努める。
- 学校農園等の施設を活用しての体験学習を充実し、児童が実感をともなつての学習活動を計画的に取り入れるようにする。
- 開かれた学校として学校支援ボランティアの活用。津田塾大学との連携、教職大学院生との連携等。

<校内研究の充実>

- ・校内研究テーマ
- 「一人一人の考えや意欲をはぐくむ授業をめざして」～小中連携を踏まえた「授業改善」を通して～

<研究仮説>

- 学習規律が確立され、授業改善が進み、授業が落ち着いた状態で行われれば、小中連携の実践は効果をあげ、学力や体力は向上するであろう。

道徳教育の指導重点

- 自他を大切に心や思いやりの心をもって人と接する心情を培うために相手の立場に立って考える場面を大切に、望ましい人間関係づくりを目指した指導に努める。
- 道徳の全体計画に基づき、家庭・地域と協力して道徳の授業の改善に努め、道徳実践力を身に付けさせる。
- 自国の文化や伝統についての理解と自覚を深め、他国の文化や伝統を理解し尊重する態度を育てる。
- 道徳授業地区公開講座を実施し、家庭や地域の人々の協力による道徳教育の充実を図る。

総合的な学習の指導の重点

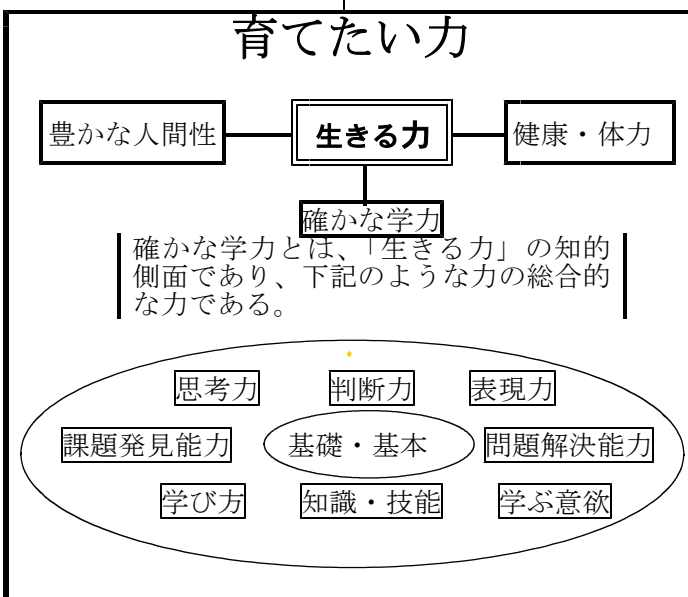
- 豊かな自然との触れあいを通して環境保全の大切さに気づき、自ら実践できることを考え、取り組む態度を養う。
- 問題を解決していく自主的・実践的態度と能力を育てるため、興味や関心をもった事柄を追究する学習を展開する。

特別活動の指導の重点

- 児童が一人一人のよさを認め合い、互いに協力してよりよい学校生活にしようとする自主的・実践的な態度を育てるため、児童の創意と協力を生かした特別活動の展開を図る。
- 豊かな人間関係や社会性を育てるため、「きょうだい学級」を編成し、異学年交流を通して相手を思いやる心や協力する態度など共に生きる児童を育てる。

進路指導の重点

- 地域の方々とのふれあいや農業の体験を通じて、身近にいろいろな仕事をしている人がいることを知らせる。
- 児童が自己理解を深めながら自らの生き方を考え、目標や希望をもって生活できるように地域の人材を生かした指導を工夫し、児童の望ましい勤労観・職業感を育成し、主体的に進路を選択する能力の基礎を培う。



生活指導の重点

- 基本的生活習慣の定着を図り、社会規範を守る態度を育てるため、具体的な方策について教職員間の共通理解を深め、家庭・地域との連携を図る。
- 児童一人一人の理解を深め、教育相談的手法を活用して児童の思いや願いの実現に努めるとともに、問題行動の早期発見に努め全職員の共通理解のもとに一致した指導を行う。また、スクールカウンセラーや関係諸機関との連携を強化し適切な対応を行う。
- 健康と安全に対する意識と実践的態度を培うため、健康教育を充実させるとともに、不審者対策をはじめとする安全管理体制を整える。

本校の授業改善に向けた視点				
個に応じた指導	指導内容・指導方法の工夫	評価活動の工夫	校内研究における研究や研修の工夫	家庭や地域社会等との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ○少人数指導の方法を工夫し指導の充実を図る ○児童の学習状況や進捗を把握し、個に応じた手だてを工夫する ○課題別学習等を工夫する ○若手教員を中心にティーチングアシスタントを配置し授業力を向上させる 	<ul style="list-style-type: none"> ○週ごとの指導計画内容の充実 ○基礎・基本の学習を徹底する ○授業の中に考える時間を確保する ○コンピュータ室、図書室等の有効活用 ○問題解決的学習及び体験的学習を工夫し、主体的学習を促進させる 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導と評価の一体化を図った学習指導を工夫する ○児童の自己評価や相互評価を取り入れることにより学習意欲を高める ○評価規準を見直し、学習指導のPDCAサイクルを定着させる 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習過程の工夫、学習形態の工夫、評価と支援の工夫を授業作りの3本柱として取り組む ○授業改善の研究を深める ○研究の視点を事前に明確に提案し、研究協議会によって研究を深める 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の周りの自然や地域を生かした学習を取り入れる ○地域の人材を活用する ○学生及び社会人ボランティアを活用する ○家庭学習の定着を図る ○大学等の関連機関との連携を図る